

「米の精7号」の環境こだわり米栽培こよみ

2013. 12

＜高品質・良食味米生産の栽培ポイント＞

- ① 栽植密度は、湖辺；60株/坪、湖辺砂質・平坦；60～70株/坪、中山間；70株/坪を基準にする。
- ② 初期生育をよく揃えることが肝要、薄播き苗を1株3本程度の細植えにする。
- ③ 「米の精」栽培では、土壌中の微生物の働きにより水稻の栄養を供給するので追肥・穂肥は不要。

＜米の精7号施肥基準＞ kg/10a

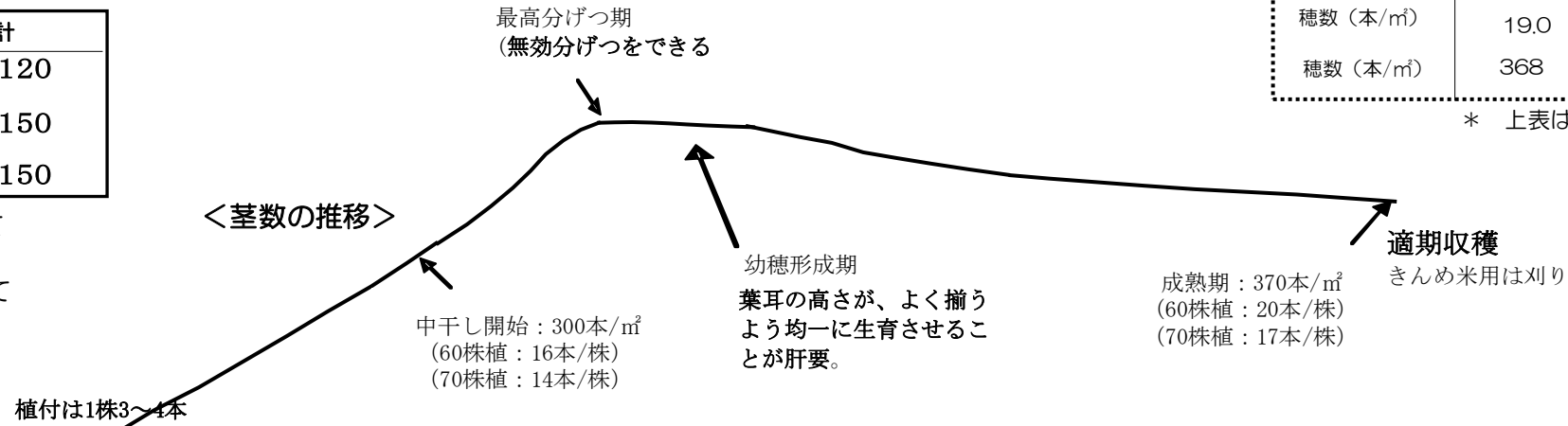
肥料名	元肥	穂肥	計
コシヒカリ	120	—	120
キヌヒカリ	150	—	150
みずかがみ	150	—	150

* 一般田では、「米の精7号」を元肥として乾田状態で施用し全面耕起後、入水する。
* 大豆・やさい跡では、地力の状況に応じて元肥量を半分～8割程度に減らす。

＜特性概要＞

区分	みずかがみ	コシヒカリ	キヌヒカリ
出穂期	7月25日	7月28日	7月29日
成熟期	8月27日	8月31日	9月1日
稈長 (cm)	84	95	83
穂数 (本/m ²)	19.0	18.8	18.1
穂数 (本/m ²)	368	415	369

* 上表は県農業技術振興センター調査



月	4月	5月	6月	7月	8月	9月			
生育期	育苗期	移植期	活着期	分けつ期	幼穂形成期	穂ばらみ期	出穂期	登熟期	成熟期

水管理	浅水代かき・自然減水	やや深水	浅水管理	中干し	間断かんがい	★湛水管理 (出穂前後各3週間)	間断かんがい (適期収穫)
-----	------------	------	------	-----	--------	------------------	---------------

栽培管理のポイント

健康の育成

- ・ 種は、均一にうす播きを励行する
- ・ 十分に浸種して芽出しを確実に
- ※ 温湯消毒は60℃10分間実施

施肥

- ※ 代かきは施肥後、1週間以内に行う。
- ※ 米の精は乾田状態で均一に散布し、直ちに全面耕耘をおこなう。

移植

- ※ 田植え前には濁り水を流さない
- ※ 田植えは5月上旬に
- ・ 田植えは5月上旬に
- ※ 栽植密度は坪あたり60～70株
- ・ 一株の植え付け本数は3～4本
- ※ 除草剤散布後7日間は確実に止水す
- ※ 浅水で湛水状態を続ける

中干し・溝切り

- ・ 中干し前に数m間隔で管理溝をつける
- ※ 1株茎数15本を目安に中干しを行う
- ※ 中干し中に田面が白乾しそうな時は管理溝に浅水を流す。

斑点米カメムシ類対策

出穂3週間前 → 出穂期

畦畔雑草の2回連続草刈り

カメムシ類の適期防除の実施

湛水期間終了後は間断かんがい

※ 田面が白乾したら管理溝に浅水を流す

※ 収穫直前まで田面を白乾させない

※ 湛水期間終了後は間断かんがい

収穫・乾燥・調製

- ※ 刈り遅れないよう注意する
- ※ 胴割粒の発生防止のため2段乾燥を行う
- ※ 玄米選別は1・9mm以上(みずかがみは1・85mm以上)の網目使用
- ※ 乾燥仕上げ粉水分は14・5%
- ※ 刈り遅れないよう注意する

※ 稲わら・堆肥など有機物を年内に鋤き込む

※ とれ太郎など土づくり肥料施用

※ 深耕

土づくり資材施用基準

土づくり資材名	施用量	施用時期
とれ太郎またはニューこう太郎	100kg/10a	年内中

苗箱施薬・除草剤使用基準

項目	薬剤名
苗箱施薬	デジタルコラトップアクタラ
除草剤	ハッリ粒・70アブル・ジヤンホ

※ 農薬は容器に記載の説明をよく読んで適正に使用する